

# Newsletter vol. 27

## 平成22年度海外ボランティア活動奨励金の 受給者が決まりました!

平成22年10月22日、新設された「海外ボランティア活動奨励金」の第一次書面審査を通過した学生が、国際交流センター運営委員の先生方の前で、第二次審査であるプレゼンテーションを行いました。当日は、福井憲彦学長も参加されました。

孤児院で子供の世話をした者。道路整備に従事した者。障害者の介助を行った者。いずれ劣らぬ素晴らしい活動でしたが、厳正な審査の結果、右記10名に奨励金が給付されることになりました。また、特に評価の高かった経済学部経済学科2年 望月 遙 さんには特別賞が贈られました。

望月さんを含めた10名の受給者のボランティア活動体験談は、国際交流センターのHPに掲載されていますので、ぜひご覧ください。

なお、平成23年度の募集については、募集要項が出来上がり次第、G-Port等でお知らせいたします。

所属	氏名	活動国
経済学部経済学科2年	望月 遥	エチオピア
人文科学研究科英語英米文学専攻博士後期課程2年	小野寺 潤	ミャンマー
法学部法学科2年	木村 明日美	フィリピン
法学部政治学科1年	和仁 郁弥	イギリス(北アイルランド)
法学部政治学科2年	小口 由貴	フィリピン
法学部政治学科2年	近藤 俊	カンボジア
文学部史学科3年	佐藤 響	イタリア
文学部英米文学科4年	加藤 亜耶	インド
文学部ドイツ語圏文化学科1年	永嶋 笑子	カンボジア
理学部数学科3年	浅沼 亮介	エジプト

### ボランティア in エチオピア

経済学部経済学科2年 望月 遙



2010年8月8日～18日、私はアフリカ、エチオピアのアディスアベバで孤児支援ボランティアをしました。大飢饉や紛争の結果、何千人もの子供たちが放置され孤児となり、今日はそれに加え、HIV/AIDS感染も問題となっています。首都・アディスアベバは著しい発展と中級階級層の登場によって経済全体に変化が表れているにも関わらず、エチオピアでは75%を占める人々が1日1ドル以下の生活を行っています。このような現状を知り、笑顔をなくしてしまった子供達に何か出来ることはないかと思い、現地へ赴きました。

今回は、世界各国からボランティアを募っている団体へ参加しました。現地には日本人スタッフが常駐していなかったのですが、



学習用具を寄付した  
孤児院の子どもと

日本に留まらず世界の人々と共に活動することで、文化やボランティアに対する考えなど多くのことを吸収できると思い、英語力は乏しいながらも参加を決意しました。

現地では教師を職としているホストファミリーの家に滞在し、現地の食べ物を食べ、現地の暮らしを体験しました。

毎日、ステイ先から30分ほどバスを乗り継いで、0～7歳位までの孤児たちが住む孤児院で朝から夕方まで活動しました。生まれてすぐに橋の下に置き去りにされた子や、道端で何日も一人たたずんでいた子、親がエイズで育てることが出来なくなってしまい預けられた子、耳が聞こえず目も見えない為に捨てられてしまった子など、日本では考えられない状況で懸命に生きている子

供達がそこにはいました。拾われて来た為に、誕生日も名前も決まっていない子が何人もいました。ミルクをあげ、おむつを替え、おもちゃで遊び、寝かせてあげ、6、7歳の子供たちには折り紙で遊んだり、地図で日本を教えてあげたりしました。孤児院で働く現地の人でも無償で働いており、孤児院の運営費や諸費用も国から支給されることはなく全て寄付によってまかなわれていると聞きました。

この団体でボランティアに来る人々の国籍は様々ですが、イギリス、アメリカ、フランスが多く、日本に至っては私が初めてエチオピアのプロジェクトに参加した日本人でした。日本人はまだまだボランティアに対する意識が低いという現実を知り、私は今回体験したことを多くの人に伝え、知ってもらうことが必要だと強く感じました。また、エチオピアでは学校に通っている子供達は幼い時から英語を学んでいます。英語を学び、話せることで将来の可能性が広がり、自国の発展にも繋がるのだと現地の人は言っていました。長期的に考えると、英語を教えるということはとても大きな意味を持つと感じると共に、現地スタッフや他のボランティアと接する際のコミュニケーションが順調にいかなかったことで、もっと多くの人を助けるためには英語力も必要だと感じ、英語力をつけたいという次なる課題も見つけることが出来ました。

短い活動期間でしたが、エチオピアの現状、ボランティアの現状、他国の人々のボランティアに対する取り組み方、今後の課題など様々なことを学び、考えられ、とても充実した発見の日々を送ることができました。停電や断水、お腹を壊すなどのハプニングはたくさんありましたが、もっとこの国、子供達に出来ることをしたいと思ひ、帰りたい気持ちがとても大きかったです。多くの事を得ることが出来ました。何よりも大きなことは、一瞬でも、自分の活動によって子供達を笑顔にすることが出来たという事です。

この経験を多くの人に伝え、ボランティア仲間を増やし、一人でも多くの笑顔を作ることで世界が平和になることを願わずにはいません。



小学校に登校してきた子供達と

海外に興味を持つようになったきっかけは人それぞれだと思いますが、1冊の本との出会いによって、「留学したい!」と強く思った人も多いと思います。そんな素晴らしい本と出会い、実際に留学を実現させた野口さんに体験談を伺いました。

## 本から始まるイタリア留学

文学部哲学科4年

野口 智美

(2009年度ポーロニャ大学派遣学生)

私は2009年8月から一年間、イタリアのポーロニャ大学に留学していました。美術史を専攻していたため、週末や長期休暇になると少し遠出し、国内外の遺跡や教会、美術館を巡りました。ポーロニャは11世紀から続く大学街であり、今も街の中心地である旧市街には大小さまざまな分野に分かれた図書館が六十以上あります。中でも私のお気に入り、考古学学科の図書館でした。修道院を改築した校舎の地下に作られたその図書館は、古代の遺跡の中にあっただけです。外の光が差し込まないために薄暗く、ところどころむき出しになったいしへの住居の礎を眺めていると、それまで本で読んでいた内容と実物が重なり合うような錯覚に陥りました。

さらに街には、古書店や専門書店も含め、おびただしい数の書店があり、本好きの私には格好の探究の場となりました。生活費を切り詰めて買い集めた美術のカタログや写真集、ちょっと珍しい古書など、帰国の折には18kgの大荷物となり船便で送ることになりました。

留学の直接のきっかけとなったわけではありませんが、イタリアに住もうと思った動機として、須賀敦子の「ミラノ 霧の風景」(白水社)という本があります。かつての小学校の恩師に薦められていた本でした。

著者はある時期までイタリアに暮らし、ミラノにある書店で働きながら、翻訳業などに精力的に取り組んだ文学者でした。初めてイタリアに留学したときのことなどを振り返り、後年エッセイにまとめたものがこの作品です。

## 協定留学プログラム派遣学生だより

### 私の韓国生活 ～ '인연' 의 나라에서 ～

文学部日本語日本文学科3年 平林 里織

皆さん、こんにちは! 私は現在、韓国の慶北大学校に留学しています。慶北大学校は韓国の大都市の一つ、大邱にある国立大学です。大邱は盆地なので、キャンパスのどこからでも山を見渡せます。また構内には小さな森や公園があり自然豊かです。そんな慶北大学校で過ごす私の韓国生活を少しだけご紹介します。

大学では、交換留学生向けに開講されている教養科目と、日本語日文学科で開講されている授業を受けています。日本語日文学科の授業や韓国語の授業では日本人としての意見をよく求められましたが、間違えたり、答えに詰まることも多く、もっと勉強しなくてはいけないと思うことがしばしばありました。

慶北大学校では、韓国人も留学生も本当に一生懸命勉強するので、

日々刺激を受けています。特に、韓国人学生は「スタディ」という定期勉強会を自主的に行っていて、授業以外でもよく勉強しています。私も日本語と韓国語の交換スタディに参加していますが、常に高い向上心を持った韓国人学生たちと勉強することは、本当に刺激的だし、大きな助けにもなっています。

また、大学の授業と並行して、韓国語の実力を身に付けるため、付属の語学学校にも通っています。授業は一日4時間。週末を除いて毎日あります。最初は初級だった韓国語も、今ではなんとか形になり、現在は上級クラスで大学や院への進学を控えた他の留学生に交じって、韓国語での論文の書き方などを習っています。

授業以外の時間は、韓国人の友人や他の留学生と食事に行ったり、部屋でルームメイトとドラマを観たりして過ごしています。授業をはじめ、コミュニケーションはもちろん全て韓国語。韓国人とだけでなく、他の国の学生たちとも韓国語でコミュニケーションをとるのはなんだか新鮮です。

しかし、今では胸を張って「楽しい!」と言える留学生活も、当初は辛い

# あなたの 留学のきっかけ本は 何ですか？



ポローニャ大学 視覚芸術学科 図書館



ポローニャ サント・ステファノ広場で友人のターニャと

ただのイタリア案内にとどまらず、イタリアでの生活がどのようなものかを、彼女の周囲の人々の姿を絶妙な観察眼をもって描き出しながら、まるで読者がその仲間たちの一員になったかのように描かれたその文章は、イタリアでの暮らしぶりの多くを私に想像させました。彼女がイタリアに移ったばかりの時の驚きや発見、戸惑いなどが他人事とは感じられず、面白く読んだ記憶があります。同じ筆者が書いた「イタリア文学論」は、私がイタリアに住んだ時、お守りのように日本から運んだ本の一冊となりました。

ところで、私が座右の書としている本にスーザン・ソクタグの「良心の領界」(NTT出版)があります。私が尊敬する知識人の一人であるソクタグが東京で開かれたシンポジウム「この時代に想う—共感と相克」に参加し、のちにその内容がまとめられたものです。

スーザン・ソクタグは作家であり、批評家、戯曲家、演出家でもあり、多くの優れた著作を残しました。そして、私がいつも心に留めているのが本書の序です。「旅をすること。しばらくのあいだ、よその国に住むこと」が「若い読者へのアドバイス」として薦められています。この短い序文は今回の留学だけにかかわらず、私にとって多くの面で指針となっているものです。

また、留学前に読んでいた塩野七生さんの著書の扉部分には、いつも「学習院大学文学部哲学科卒業後、63年から68年にかけて、イタリアに遊びつつ学んだ」と書かれていました。その文言に密かに憧れた私

は、イタリアに留学したら遊びつつ学ぼうと、ひとり息巻いていました。

果たして留学期間中、私は休みなくイタリア中を歩き回り、本屋に立ち寄って本を一冊買っては、また次の街へ出掛けていくことを繰り返しました。東京にいた時に本で読んでいたことを、現地に行って目の当たりにし、さらにまた本を読んで知識に厚みをつける。その繰り返しで得たことは、私にとってかけがえのない財産になりました。この先も本と旅のあいだを彷徨いながら、自らの思考をより豊かなものにしていきたいと思います。

文学部英米文学科4年 長谷川一城君(2008年度オックスフォード・ブルックス大学派遣学生)のきっかけ本は、『武士道』(新渡戸稲造著)や『壬生義士伝』(浅田次郎著)だそうです。留学中、日本を外から眺め、母国に対する考え方を見つめ直す時、何度も読み返したそうです。また、本ではありませんが、文学部英米文学科4年 島田なつきさんは、中学生の頃、NHKのラジオ「基礎英語」から流れてくるイギリス英語に魅了され、イギリス留学を志したそうです。見事、エディンバラ大学への留学(2009年度派遣学生)を果たした島田さんの留学体験談は、Gakushuin.TVで視聴できます。

ことがたくさんありました。留学前に勉強した韓国語はほとんど役に立たなかった上、銀行、携帯電話、食堂やバスの利用方法などなど、システムがよくわからず一人では出来ないことばかり。そんな私を、友人、友人の友人、友人の家族、時にはそのまた知人と、本当に多くの人が助けてくれました。

このことから分かる通り、韓国では人と人との繋がりがとても大切にされています。こうした人と人の繋がりを、韓国語ではよく「인연(因縁)」と言います。日本語にも「縁」という言葉がありますが、韓国語の「인연」はそれよりもっと広い意味で使われているように私は感じています。

もちろん留学生活では、良い「인연」をただ待つだけではなく、自分から積極的に人に接しようとするのも大切です。私は元々あまり社交的なタイプではなかったので、最初のうちは「인연」社会である韓国に戸惑うことが何度もありました。しかし、日本に比べて人と人との距離が近く、また人との出会いを大切にすることが多い韓国から、知らず知らず刺激を受け、少しずつですが、積極的に人と接するようになりました。こうした「인연」という概念とその良さを知ることができたことは、語学力など目に見えるものとはまた違った、留学の成果の一つだと思っています。

最後に、この「Newsletter」を手にして留学に心を惹かれ始めている

皆さんへ。留学をして失うものは何もありません。どんな状況になっても得るものばかりです。今、留学したい気持ちがあるなら、ぜひ迷うことなく行ってください。どんなに良い「인연」も、自分から出会おうとしなければ一生巡り会えません。皆さんもぜひ、日本の外へ一歩踏み出して素敵な「인연」を結んでみてください！



チューターと(左側が平林さん)



スタディメンバーと

## 平成23年度学習院大学 海外留学奨学金及び 奨励金の募集について

平成23年度の「学習院大学海外留学奨学金及び奨励金」(対象者:学籍簿上の留学期間が①H23年4月～H24年3月又は②H23年10月～H24年9月の者)の、第1回目の募集は終了しました。第2回目の募集は6月頃の予定です。募集要項の配布開始については、国際交流センターのHPやG-Port等でお知らせします。

### 【学習院大学海外留学奨学金】

応募条件: 「留学願」が承認されている者又は承認されることが見込まれる者等  
奨学金額: 1名につき50万円以内(給付)  
募集人数: 20名以内(年間)

### 【学習院大学海外留学奨励金】

給付条件: 海外留学奨学金受給者のうち、特に優秀な者  
奨励金額: 1名につき10万円以内(給付)  
採用人数: 10名以内(年間)

平成22年度は以下の皆さんが奨学生に選ばれています。(奨励金受給者10名を含む。)

所属	氏名	留学先国
政治学研究科政治学専攻博士前期課程1年	高垣 真菜	アメリカ
人文科学研究科史学専攻博士後期課程3年	河野 剛彦	中国
人文科学研究科イギリス文学専攻博士後期課程3年	大野 英樹	イギリス
人文科学研究科フランス文学専攻博士後期課程1年	土橋 友梨子	フランス
人文科学研究科フランス文学専攻博士後期課程1年	前山 悠	フランス
法学部政治学科3年	内野 琴水	中国
法学部政治学科2年	瀧口 賀子	中国
経済学部経済学科3年	上原 葉奈子	オーストラリア
経済学部経営学科2年	染谷 大樹	イギリス
文学部英語英米文化学科3年	青木 瞳	イギリス
文学部英語英米文化学科3年	田崎 丸美	イギリス
文学部日本語日本文学科3年	久保 知佳	台湾
文学部ドイツ語圏文化学科2年	中川 智絵	ドイツ
文学部ドイツ語圏文化学科2年	門戸 洋子	ドイツ
文学部フランス語圏文化学科4年	橋本 佳奈	フランス
文学部フランス語圏文化学科2年	島田 真里奈	フランス
文学部フランス語圏文化学科2年	山田 三津子	フランス

## 平成23年度学習院大学 海外短期語学研修奨学金の 募集について

国際交流センターでは、昨年度より、夏季休業中に短期語学研修に参加した学生を対象にして「学習院大学海外短期語学研修奨学金」制度を開始しました。今年度の募集要項の配布開始については、国際交流センターのHPやG-Port等でお知らせします。

### 【学習院大学海外短期語学研修奨学金】

応募条件: 夏季休業中に海外で3週間以上の語学研修に参加した者等  
奨学金額: 1名につき10万円以内(給付)  
募集人数: 100名程度(年間)

平成22年度の採用実績は以下の通りです。

所属	人数
法学部	3
政治学科	4
経済学部	8
経済学科	2
経営学科	8
哲学科	6
日本語日本文学科	23
英語英米文化学科	18
ドイツ語圏文化学科	7
フランス語圏文化学科	2
心理学科	2
理学部	2
物理学科	3
数学科	1
フランス文学専攻	1
人文科学研究科	1
ドイツ文学専攻	1
臨床心理学専攻	1
合計	89

## 2012年度協定留学プログラム(第1期) 派遣学生募集について

国際交流センターでは、2012年度第1期(派遣先:韓国、タイ、オーストラリア、ニュージーランド等)留学期間:2012年4月～2013年3月)の派遣学生を募集します。

説明会の開催日時、募集要項の配布日程等については、後日、国際交流センターのHP上やG-Portを通じてお知らせします。

なお、第2期(派遣先:中国、アメリカ、ヨーロッパ等)留学期間:2012年10月～2013年9月)の募集は、後期に行う予定です。

※学部間協定による協定留学については、各学部の事務室に問い合わせてください。

★本号に掲載されている学部学科・学年は平成22年度現在のものです。

## Gakushuin.TVで視聴できます!

学習院が3分でわかる!という学校発信の動画コンテンツ「Gakushuin.TV」をご存知ですか? 国際交流センターでは、「Gakushuin.TV」を通じて、協定留学生と留学経験者からのメッセージを提供しています。協定留学生が自分の大学の魅力を日本語または英語で紹介している他、留学経験者が留学の魅力について語っています。活字が苦手でも動画なら、ワンクリックでOK。ぜひ、ご覧ください。

「Gakushuin.TV」には、国際交流センターのHPの下記のサイトからもリンクが張られています。

### ■留学した先輩からのメッセージ

[http://www.gakushuin.ac.jp/univ/cie/senpai\\_message.html](http://www.gakushuin.ac.jp/univ/cie/senpai_message.html)

### ■協定留学生からのメッセージ

[http://www.gakushuin.ac.jp/univ/cie/ryugakusei\\_message.html](http://www.gakushuin.ac.jp/univ/cie/ryugakusei_message.html)



海外留学のススメ  
(アメリカ編)  
文学部英米文化学科4年  
堀本 大樹



私の大学へ留学しませんか?  
(ドイツ編)  
バイロイト大学  
シンケル ニコラウス ヨハネス



海外留学のススメ  
(イギリス編)  
文学部英米文化学科4年  
島田 なつき

# Newsletter vol.27

April 1, 2011

発行日/2011年4月1日

編集・発行/学習院大学国際交流センター

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

TEL.03-5992-1024 FAX.03-5992-1025

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/cie/index.html>

★表紙の写真/禹 吳穎

●編集後記● 沢木耕太郎の「深夜特急」に出会ったのは、社会人になってからのことであつた。このインドからイギリスまでのバスによる旅行記は、無性に私を旅に駆り立てた。が、現実はそのもいかず、本を紐解くことで、バックパッカーの旅を疑似体験して楽しんでいる。舞台は1970年代なので、今は時代背景も異なるが、20代の若者が旅を通して、感じたり、考えたり、悩んだりする姿は、今も色褪せることなく、生き生きとして、共感を呼ぶ。旅は自分を見つめ直す絶好のチャンス。ぜひ、自分なりの「深夜特急」の旅に出掛けてみてはいかがですか?

### 【平成23年度国際交流センター運営委員】

所 長	水野 謙	(法学部)
運営委員	村山 健太郎	(法学部)
//	Brown, Phillip	(経済学部・外国語教育研究センター)
//	村野 良子	(文学部)
//	谷島 賢二	(理学部)
//	高橋 利宏	(副学長)
//	中山 高二	(学生センター部長)
//	宮澤 文玄	(国際交流センター課長)